

## 地域志向少人数教育の実践に関する活動報告

小 松 原 尚

### はじめに

2014年度専門ゼミⅠ（3年次配当科目）の授業は、「地図と地理学」をテーマに展開した。その目標は① 地図、地理関連の文献の使い方を身につける。② 旅行資料の作成と利用の方法に習熟する。③ 学内外を問わず学習の機会をみつけ、積極的に参加することにある。

これらの中で、①は最優先の目標と考えている。そのためゼミにあっては、テーマに見合ったテキストを読み進めつつ、「論文のつくり方」を習得していくため、3年次より、卒業論文を念頭に、先行研究の整理を順序だてて指導する。これまで受講した地理学系の科目で使用したテキストをはじめ関連する文献を引き続きゼミの参考書として使用している。

そして、①の目標をより一層学生諸君の意識・関心の中に定着させるためには、野外活動による文献内容の確認が不可欠である。そこで、ゼミ活動の一環として、季節にもよるが、1～2か月に1回程度の割合で、日帰りツアーを実施した。2014年度における活動内容は以下のようになっている。

これらの活動の中で本稿における報告の対象とするものは、ツアー番号の1番から5番までである。さらにその中で、1番から3番までは、その活動成果を奈良県立生駒高等学校における進路探究会の場で発表した。これは奈良県立大学の広報活動用務とも連動したものである。

また、6番については、2015年度より小松原専門ゼミに分属になる2年生（当時）も一緒に活動になった。その報告については、まとめたものを本学の「研究

季報」第26巻1号にて発表しているので、併せて参照していただければと思う。

	活動年月日	活 動 テ ー マ
1	2014年 4月21日	近世以降の大阪における水インフラ整備の観察
2	2014年 5月31日	地理オリンピックのフィールドワークテストコースを歩く、京都市伏見区
3	2014年 6月21日	景観観察による大阪湾沿岸域の開発史の学習
4	2014年 9月10日	宇陀市菟田野地域モニタリングツアー
5	2014年11月22日	読図学習における舞鶴市での臨地研修
6	2015年 2月17日	奈良県黒滝村における学生による学習環境調査

ところで、奈良県立大学は、大阪市と京都市という関西の大都市とはほぼ等距離に位置している。学生諸君の主たる通学圏もこの範囲となっている。その意味で身近な地域・場所を素材とする地域志向教育もこれらの範囲での活動が多くなる。ツアー番号の1～3番はその事例としても位置付けられる。

ただ、一方で奈良県の南部(南和)地域は山間の過疎地域となっており、その点の学習対象としてもこれらの地域は貴重な素材となっている。ツアー番号の4番や6番はその点を念頭においた学習活動である。このようにわれわれの大学は地域における過密・過疎問題、都市の中心部と周辺部という両側面を考える上で恵まれた学習環境に位置すると考えられる。

そして、2015年度現在、4年生3人、3年生4人であり、少人数でのゼミナール教育を行える環境にもある。本稿は、現4年生の3年次における活動成果の到達段階を確認し、今後に資する目的のもとに編まれたものである。以下に記す3年次の活動が、2015年度の卒業論文に活かされるものと希うものである。

---

※本稿の対象とする調査・学習活動には、平成26年度大学改革推進等補助金(地(知)の拠点整備事業)「地学連携と学習コモンズシステムによる地域人材の育成と地域再生」の一部を使用した。

## I 高大連携・広報活動の一環としての学習成果の発表

### (1) 準備のための野外活動

#### 1) 近世以降の大阪における水インフラ整備の観察

- ① 活動日：2014年4月26日
- ② 参加学生：大下紗季、端野良介
- ③ 行程

京橋→国道1号線・「銀橋」(桜宮橋)→泉布観・旧桜宮公会堂→大川端→川崎橋・大阪橋→大阪府立女性総合センター脇の豊臣時代の大阪城の石垣→太閤下水→露天神社(つゆのてんじんしゃ、お初天神)・戦跡(石柱の被弾跡)→梅田

#### ④ 活動の概要

大阪城跡の周辺の散策で、大阪城の現在の状態や立地について学んだ。大阪城は台地の上にあり、石垣が三重の荘厳な城で、かつての大阪の中心であったこと、徳川による破壊の痕跡が現代にも残っていることが分かった。これは、経済地理学で学んだ「三大都市の個性と経済活動」(日本経済地理読本第3章第2節)の大阪について実際に学習したことになる。

太閤下水見学施設では約400年前の下水道を見学するとともに、現在の区割りとして残っていることを学んだ。これは、都市計画論の16世紀の都市計画の意味を実際に学習したことになる。16世紀後半から17世紀の都市計画は敵から都市を守ること、権力の象徴とすること、統治機構を具体化することが主な目的である。(端野良介)

#### 2) 景観観察による大阪湾沿岸域の開発史の学習

- ① 活動日：2014年6月21日
- ② 参加学生：大下紗季、谷内義和(全員3年、学年は参加時点のもの)
- ③ 行程

インテックス大阪→コスモスクエア駅→(電車移動)→大阪港駅→旧住友倉庫(赤レンガ倉庫)→海遊館→天保山→(船移動)→JR桜島駅

#### ④ 活動の概要

##### i) 学外講義と野外観察

この学外活動調査は、大阪湾開発の歩みをテーマとし、大阪湾がどのような開発がされてきたか、現在どのような様子であるかを理解することを目的としていた。内容は、インテックス大阪で開催された夢ナビライブ 2014 にて小松原尚教授の「17 世紀は海の底～大阪湾沿岸域の歩き方～」という講義を受け、大阪港の周辺の上記③の通りのコースをまわった。

講義では、大阪湾沿岸域の産業構造の変化による土地利用の変化について取り上げられていた。19 世紀、工業化が急速に進み、大阪沿岸域は造船所や製鉄所などの工場地帯となった。しかし、日本の造船業は衰退したため、造船所は不用となり、その跡地の利用を考えなければならなくなった。そこで、大阪湾ベイエリア開発法によりユニバーサル・スタジオ・ジャパン (USJ) の建設が決定した。また、造船所から USJ へと変わったことで鉄道の引き直しや、駅の移動などが行われた。

野外観察行動では、講義で学んだことを振り返りながらコースを歩いた。再開発によって完成した街並みや、工場地帯の残っている地域を実際に見ることができた。USJ や海遊館などのサービス業的土地利用と旧住友倉庫 (赤レンガ倉庫) のような工業的土地利用が近接してとても興味深い景観であった。(大下紗季)

## ii) 現地での景観観察でわかったことと今後の学習課題

私たちはインテックス大阪から JR 桜島駅まで歩きながら、大阪港の歴史および当時の倉庫群や港の跡地がどのように使われているのか学んだ。

まず、インテックス大阪から ATC、中ふ頭を経てコスモスクエア駅まで歩き、そこから築港に地下鉄で向かい、築港の周辺を歩き、天保山公園からは渡船に乗り換え、桜島からは歩いてユニバーサルスタジオジャパンの裏側を通りながら JR 桜島駅に向かった。

インテックス大阪からコスモスクエア駅までの間は巨大なビルなどがいくつか建っているが、空き地が目立っていた。人も ATC や大阪府咲洲庁舎などの建物が無い場所ではほとんど見られなかった。

築港の周辺は住宅地が中心だが、海岸沿いには倉庫群が見られた。現在も使われている倉庫がほとんどで、真新しい倉庫が多くあったが、赤レンガ造りの

倉庫も存在した。

天保山公園の周辺は海遊館があることもあり、家族連れやカップルの姿が多く見られた。天保山渡船場の使用者は地元の人が多いようであった。

桜島からユニバーサルスタジオジャパンにかけては直前の講義で元々貨物線のヤードがあったと聞いていたが、その面影を見つけることは出来なかった。ユニバーサルスタジオジャパン周辺も、裏口の辺りは静かな住宅街が広がっていた。

咲洲周辺はなぜこれほどまでに空き地が広がっているのか、調べてみたいと思った。

後日調べてみると築港の外周にあった赤レンガの倉庫のほとんどは使われていないことがわかった。そのため、なぜ使われていないのかさらに調べてみたいと思った。(谷内義和)

### 3) 地理オリンピックの京都市伏見フィールドワークテストコースを歩く

- ① 活動日：2014年5月31日
- ② 参加学生：大下紗季、谷内義和
- ③ 行程

京阪中書島駅北口→伏見港公園→三栖閘門→東高瀬川→寺田屋周辺→大倉記念館→大手筋商店街→御香宮

#### ④ 活動の概要

##### i) フィールドワークテストの追体験とゼミでの学習

京都市伏見区にて行われた人文地理学会主催の「第29回 地理研究部会」に参加した。この研究部会は、中等地理教育フィールドワークに求められる技能をテーマとし、2013年に京都で開催された第10回国際地理オリンピックのフィールドワークテスト(FWT)は、どのような力が求められたのか、どのように作題・実施され、そしてどのような評価だったのか、FWTが行われた伏見の地で検討することを趣旨としていた。内容は、地理オリンピックのFWTコースを追体験し、御香宮神社参集館にて地理オリンピック京都大会FWTに関する研究発表会を行うというものであった。

FWTは、「都市と水」というテーマで作成されていて、参加者に水を活かし

た都市づくりを把握し、伏見の解決すべき問題への指摘や、解決への斬新なアイデアを求めるといったメッセージを込めていた。実際にそのコースを歩いてみて、安土桃山時代から始まる航路の開発、三栖閘門の役割、2013年の台風18号の被害状況など水と密接した関係にある都市の様子を把握できた。そして、専門ゼミで、「江戸時代初頭の1611年（慶長16）には、京都との間を結ぶ運河である高瀬川が角倉了以の手によって開削されるなど、伏見は京都の外港としての機能をもっていた。また幕末から明治にかけて酒造業が発展したことも伏見の都市発展にとって重要であった」（山田,2006,p.7）というように、伏見は航路が発達し、水と深く関わる産業がさかんであることを学んだことは、この学外活動調査と深く関連しており、伏見の水を活かした都市づくりについての理解が深まった。

尚、伏見の抱える問題とは、水と密接に関わる都市づくりで、交通や産業に有利である反面、2013年の台風18号で引き起こった浸水被害のように水害に対応しきれていないという問題である。（大下紗季）

<引用文献>

山田誠（2006）：古都の近代化 京都市（所収 平岡昭利・野間晴雄編『近畿Ⅰ／地図で読む百年／京都・滋賀・奈良・三重』古今書院：1-10）

ii) テキストを確認しての事前研究

私たちは、地理学会の方々と共に京都市伏見区を歩き、「人々の生活と水」をテーマに問題が出された日本での地理オリンピックの題材として選ばれた、京都市伏見区の治水についてフィールドワークを行いながら学んだ。また、伏見でのフィールドワークを行う前に、私はあらかじめ古今書院「近畿Ⅰ 地図で読む百年」、京都市ホームページ『高瀬川 都市史 22』2003-2009、から伏見区や高瀬川、さらに伏見区内にかつて存在した巨椋池の歴史を以下のように学んでから現地へ向うことにした。

伏見は昔から京都と大阪を結ぶ交通の要所であった。伏見区の治水は1592年の豊臣秀吉による伏見城建設の際より始まり、そのころには伏見城下には巨大な池である巨椋池が存在し、宇治川、桂川、木津川の合流地点となっていた。そこに建設された伏見港から、伏見～大坂間が淀川の舟運、伏見～京都間は陸

上交通というのが一般的であり、伏見は舟運と陸路の中継点として重要な役割を果たしていた。

そして江戸時代も交通の要所とされていた伏見だが、たび重なる洪水被害のため、明治時代には大規模な河川の付け替えが行われました。これにはオランダ人技師ヨハネ・ディレイケイらの指導があった。しかし、蒸気船による水運は京都市と大阪市などを結ぶ鉄道が開通したことや淀川（宇治川）での水運の衰退とともに港も衰退したため 1962 年（昭和 37 年）に廃止になったということを学んだ。（谷内義和）

### iii) 現地での研究活動

実際に伏見に向かい私が注意していたのは、伏見の水運と高瀬川、巨椋池の関係である。旧巨椋池付近にある三栖閘門資料館では、かつて存在した巨椋池から高瀬川へと船を侵入させるための水門の資料を展示していた。資料館によると宇治川と高瀬川を結ぶ三栖閘門はオランダのディレイケイらによって明治時代に建設されたもので、水門によって水を上下させ、水面の高さの違う巨椋池と高瀬川の間の船の行き来を可能にしたものだそうだ。現在は高瀬舟による水運は行われていないが、現在でも三栖閘門は使用することができるようである。

もう一つの水運の大きな要素であった高瀬川は、かつての高瀬舟が復元されていたり、高瀬舟を体験する遊覧船のようなものが行われていたり、歴史を利用した観光スポットとして扱われているようであった。高瀬川の周辺は遊歩道として整備されており、川端には木々が植えられている。しかし、地理学会の方からは「この川は昔の高瀬川とは水源が違って、本来の高瀬川とはつながっていない」と教わったので、後日このことについて調べてみると、私たちが歩いた高瀬川は河川の付け替えにより、かつては鴨川を水源とするものだったが、今は鴨川とは間接的にしかつながっていないということがわかった。（谷内義和）

### <参考資料>

山田 誠：古都の近代化 京都市

秋山元秀：巨大な池が近郊都市に 巨椋池干拓地

（所収：平岡昭利・野間晴雄編「近畿Ⅰ／地図で読む百年／京都・滋賀・奈良・

三重」古今書院P1-P16)

京都市『高瀬川 都市史 22』2003-2009

<https://www.city.kyoto.jp/somu/rekishi/fm/nenpyou/htmlsheet/toshi22.html>

(2) 学習成果発表会の公開と高校生とのディスカッション

1) 活動日：2014年9月25日

2) 参加学生：大下紗季、端野良介、谷内義和

3) 活動場所：奈良県立生駒高等学校

4) 対象生徒数合計：19人(男14人、女5人)

5) 活動の概要

- ① 「分野紹介」では、『公開ゼミナール：大阪湾沿岸域野外活動報告会』として、3人の学生諸君の活動補助により、学生と前学期に調査をした淀川流域の3か所の活動成果を報告した。そして、小松原が、17世紀まで、海遊館、USJそれぞれの立地の場所は海底であったこと。現在、そこは、多くの人々の訪れる集客スポットになっていること。それらを踏まえて、では、なぜ今それらがそこにあるのか。水都大阪の陸域の変化の背景を野外観察によって確認した情報を素材にしながら説明して模擬授業をまとめた。
- ② 「学校紹介」では、学生の学習活動(主に、小松原のゼミ)を示す画像資料を通して、本学の教育活動を説明した。後半はゼミ所属の学生3人と高校生とのグループディスカッションに充てた。「大学で何を学ぶか」をメインテーマに活発な議論のやりとりがあった。受験のノウハウのみならず、学生諸君の学修活動の説明、高校生からは勉強したい内容や大学の授業について質問があり、学生が自分の経験に基づきつつ説明していた。

多岐にわたり、学生・高校生とのディスカッションができ、小松原個人としても有意義な時間になったと考えている。

6) 参加学生のコメント

- ① インターネットで検索すれば出てくるようなものだけではなく、実際に行って分かった事、行かなければ分からなかった雰囲気伝えることができるように心掛けた。具体的には、大阪城三の丸の遺構については、見た目に



反して浮き石が多くグラグラしていたことや、写真を通して交通量があまりない道路であることを伝えようとした。また、ビルの横に自然にあるので、立て看板がなければそれとは分からないことも伝わるように心掛けた。

スライドの写真は各要素で一番分かりやすいものを選んだ。発表中に詰まることの無いよう、手持ちの資料の文字を大きくし、ゆっくり発言しようと心掛けた。また、質問に備えてウィキペディアの記述をコピー & ペーストしたものを資料に加えておいた。(端野良介)

- ② 私は、南海トラフ沿岸域巨大地震に備えるというテーマで、都市の地震・津波防災について研究しているが、伏見区の浸水被害は、都市の水害、防災という点で、関心を持った。南海トラフ沿岸域には、大阪市という大都市が含まれている。伏見区の水害の状況や防災対策をより詳しく調べることで、大阪市の水害・津波防災を考えるヒントになるのではないかと思う。(大下紗季)

- ③ 3名の高校生と奈良県立大学について座談会を行った。3名とも奈良県立大学の説明会には、動機らしい動機はなく参加していた。地域創造学部はどのような学部であるかの説明や、学生目線ではどのような学校であるかを話した。

私は、受けたい講義をほとんど自由に受けることができ、興味のある分野を特定せずに学ぶことができるという話をしたが、2014年度の入学生からカリキュラムが変わるため、高校生に向けて講義をどのように受けるかや、雰囲気というものを伝えづかった。

説明会に参加した3名は、構えずに素直な考えを話してくれたため、こちらとしても話しやすかった。(大下紗季)

- ④ 私が発表した内容は先日の「大阪港ツアー」に関してである。私が気を付けたのは「高校生にいかにわかりやすく伝えるか」である。そのために、言いたい言葉はなるべく少なめにし、時々ジョークも交えながら発表することにした。

実際に発表すると、先に発表した二人の声の小ささが気になった。また、今何を発表しているのか分かりづらく、指示棒をうまく使わないといけなかった。

発表の反応としてはあまり芳しくなかった。特に、数名話を聞かず眠っている生徒がいたことが残念である。これに関してはもっと引き付けられるような話をできるようにするべきであったのではないかと思った。

後半のディスカッションでは、高校生が思っていたより「大学でどんな勉強以外のことをしているのか」について興味を示していることが意外だった。

(谷内義和)

7) 奈良県立生駒高等学校「進路探究会」生徒感想文

番号	内 容
1	淀川流域の話を聞きました。京都伏見の話から大阪桜ノ宮の話、そして天保山、ユニバーサルスタジオジャパンの話を聞きました。私が一番興味を持って聞いた話は天保山からユニバーサルまで渡れる船があるということです。初めて聞いた話でそんなんあるんかと興味がわきました。
2	すごく面白かった。桜島周辺の歴史がとても長いことには驚いた。桜島駅が2回も移動していたいは知らなかった。
3	地図や資料をみて、考えるという事を学びました。大阪などの場所に行って学んだ事を教えてくれました。ユニバーサルスタジオジャパンの場所は昔、造船所ということがわかりました。他の地域の場所も昔どんなだったか知りたくなりました。
4	よく知っている大阪湾の過去の地図の状況を楽しく学びました。ありがとうございました。
5	水都大阪の陸域の変化の背景を知れて良かったです。野外観察されていたので、したくなるほど楽しそうでした。
6	USJの周りや海遊館など、興味深い所の昔の姿などをくわしく教えていただいて本当に楽しかったです。
7	僕たちにも興味を持てる内容で、聞いていておもしろい内容でした。地域創造という分野を少し地味なイメージがありましたが、すごく大切な勉強だと思いました。僕たちの前で話してくださった大学生の3人の方々の講義もすごく上手くて、大学生になったらあれぐらいは人前で話せないといけないと思いました。
8	今と昔では、地形がすごく変化していてびっくりした。昔の岩をそっくりそのまま並べ方まで再現するのは難しいだろうなと思った。

9	最初地域創造って何するのかなと思ってたんですけど、今の土地を昔にさかのぼって見るのはとてもおもしろかったです。地理は苦手だったのですが、こういう見方もあるんだなと知って驚きました。
10	フィールドワークの報告など楽しそうでした。そして、今ある施設が昔は、どうだったのかなど、地理や歴史が必要だなと思いました。この分野に興味がよりもてました。
11	USJがあった場所は元はどういう所だったのかや、大阪湾の地形、昔はどうだったのかという話を聞きました。在学生の人がゼミに来てくれて分りやすく説明してくれて、ここの学校もいいなと思いました。
12	今回、大阪湾岸の再開発についての模擬授業を受けて初めて知ったことは、日本の主要都市の多くは湾岸などにあるということです。なぜなら、海に面している都道府県の県庁所在地の多くが大都市であることを、今回の模擬授業を通して気づいたからです。つまり、日本は島国だから、湾岸などを発展させていると思いました。
13	私は将来、環境デザイン関係の仕事に就きたいです。そのために進学したい地域創造学部のお話しが聞けてうれしかったです。
14	大学では具体的に何をするのか良く分らなかったけど、二時間を通して、だいぶくわしく分かりました。実際にその場所へ行行って学んだり、そこではどのように土地が変わっていったかと、様々なことを学べるのが分かり、とても参考になりました。ゼミ生との意見交換をして、重く考えすぎるのもどうかなと思いました。全然学力がないけど、目標が一つ増えました。まずは、十月のオープンキャンパスに行ってみようと思います。大変有意義な時間をありがとうございました。
15	地域創造科では、地図を使ったりして、そこになぜ建てられているのか、建てられる原因になったものは何かとか調べたりするので、地理や歴史も勉強できます。進路探究会ではゼミ生も三人来てくださり、ゼミ生の発表と先生の発表を聞き、まずゼミ生から発表していました。ゼミ生の発表を聞き、僕は地理が苦手なのでこんな僕でも出来るのかなぁと思いました。けど地理と歴史には興味を持て、その場所の歴史の構造を追って調べていくのは楽しいなと思いました。

## Ⅱ 自治体との連携による学習環境創造の模索

### ―宇陀市菟田野地区での観察調査の記録と大学での学び―

(1) 活動日：2014年9月10日

(2) 参加学生(調査補助者)：端野良介

(3) 活動内容：宇陀市菟田野地域モニタリングツアー

(4) 活動の概要

宇陀市でのモニタリングツアーでは観光資源の発掘と有効活用について学んだ。これは、やまとまほろば学第8回の奈良県中南部の振興施策を実際に学習したことになる。観光振興は「地域の魅力の発見・創造」→「情報(魅力)発信」→「交流人口の増加」というプロセスで行われている。今回のツアーは「地域の魅力の発見・創造」をするものであった。

鹿の革製品を扱っている「春日」では、特産品の毛皮製品について、地域産業の振興と、毛皮製品の利用範囲の拡大について学んだ。これは、「地域と産業」(石川敬之先生)の講義の中で、「産業と地域」について実際に学習したことになる。地域の活性化には「産業」の存在が必要であって、その「産業」を構成する企業の存在が地域に活力を与える。つまり地域の活性化は活発な企業活動とつながっている。

(5) バス移動中における車内外観察調査

1) 景観資源調査

#### 【活動事項】

車窓から眺められる景観で、興味のあった地点とその内容をいくつでも記す。

観 察 内 容
水芭蕉(サトイモ)が咲き乱れている。川の水が透き通っている。河川敷が石段状になっている。山や川に囲まれているが路面は整備されている。

2) 危険発見調査

#### 【活動事項】

交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のためのバスでの移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容をいくつでも記す。

観 察 内 容
信号は殆どなく走りやすいが道が曲がりくねっている。車幅ギリギリの非常に細い道があった。あまり街灯は見受けられなかったので、夜は真っ暗かもしれない。かなり道がくねっている割に50キロの速度制限の道路があった。より一層事故に気を付けなければならない。

### 3) 車内学習環境調査

#### 【活動事項】

学習の場として、バス車内を利用する場合を想定した調査

#### i) 学生が予め準備しておくべきこと

準 備 内 容
揺れる車内でメモを取ることは困難なので、バインダーを持参する。もしくはパソコンを持参し、これでメモを取る。現地の道路状況を事前に調べる。酔い止めが必要な場合は準備する。現在地を把握する為にGPS機能の付いた端末を用意する。山間部では自動販売機があまりないので十分に飲み物を準備する。

#### ii) 車内装備としてあったらよいと考えられるもの

準 備 内 容
双眼鏡があると見やすい。観光パンフレット等、現地の状況を知れるものがあるとよい。

#### iii) 車内で安全にくつろぐための留意点

準 備 内 容
シートベルトは確実に固定する。揺れで人体に刺さる可能性を考慮して、シャープペンシルではなくボールペンを使用する。筆記だけに集中するのではなく、前方の道路状況も把握するようにし、揺れに備える。飲み物はペットボトルのものを準備する。

## Ⅲ 読図学習における舞鶴市での臨地研修

(1) 活動日：2014年11月28日

(2) 参加者

1) 学生：大下紗季、端野良介、谷内義和

2) 地域交流室職員：大石克成、増田涼子

(3) 活動場所：舞鶴市内

(4) 行程

近鉄奈良駅前 (春日ホテル前) 9:00	→	JR 奈良駅前 (西口) 9:10	→	舞鶴赤レンガパーク 11:30 ~ 13:30
関西電力 エル・マールまいづる 14:00 ~ 15:00	→	JR 奈良駅前 17:50	=	近鉄奈良駅前 18:00

(5) 活動の目的

- 1) 旧帝国海軍の軍事都市として発展した舞鶴市の特徴を観察する。
- 2) 赤レンガ倉庫群など、近代化遺産の保存と利活用について実体験する。
- 3) わが国のエネルギー事情に関して学習する。

(6) 活動の報告

1) 報告①

今回の学外活動調査の内容は、舞鶴赤れんがパーク、赤れんが博物館、舞鶴引揚記念館、関西電力エル・マールまいづる（舞鶴親海公園）への見学と、奈良から舞鶴までのバス車内外調査活動であった。

舞鶴赤れんがパークには、舞鶴市政博物館があり、舞鶴市の成り立ち、歴史を学ぶことができる展示がされていた。

赤れんが博物館は、舞鶴市の赤れんが倉庫の歴史に限らず、煉瓦そのものの性質や国ごとの煉瓦の違いなど、煉瓦に特化した展示をしており、個性的な博物館であった。

舞鶴引揚記念館は、引揚の歴史や引揚者やその家族が体験したことが、文字資料や、引揚者の実際の持ち物などの展示があった。

関西電力エル・マールまいづる（舞鶴親海公園）は、建物が大型の船の形になっており、エネルギーや電力のことはもちろん、船に関する展示や、舞鶴の歴史や風土、プラネタリウムなど盛りだくさんな内容であった。展望デッキからは、舞鶴港が一望でき、山々に囲まれた港の様子がよく分かった。

往復の車内外調査活動は、往路は、奈良から大阪府、兵庫県を經由して舞鶴市へ向かい、復路は、舞鶴市から京都市を經由して奈良へ向かった。

舞鶴市市政博物館の展示内容は、専門ゼミで学んだことと深く関連していた。舞鶴市は、明治34年に日本で「4番目の海軍鎮守府が……開庁した。軍港建設にともない多くの軍関係者およびその家族のため……また軍港を中心とした運輸交通網の整備の必要性から、……新たな都市づくり」(上野,2006,p.31)が行われ、軍港都市として発展した。戦後、鎮守府は解体し、軍需から民需への変換が進んだ舞鶴市は、「貿易港としての性格を強め」(上野,2006,p.34)た。現在、港湾都市の歴史と城下町の歴史といった「舞鶴の歴史を活かした新たな都市更新」(上野,2006,p.34)を行っている。

私は、テキストの文章や、地図を見て学んだことから、赤レンガをはじめとした異国情緒溢れる舞鶴市街地を想像していたが、赤レンガ以外は特に異国のような建物が少なく、山々が連なっていて市街地が狭いという印象を受け、ギャップを感じた。(大下紗季)

#### <引用文献>

上野裕(2006):軍港都市の建設と変容(所収 平岡昭利・野間晴雄編『近畿Ⅰ／地図で読む百年／京都・滋賀・奈良・三重』古今書院:31-34)

#### 2) 報告②

エル・マールまいづるは、関西電力のPR館として、舞鶴市の舞鶴親海公園に作られたものである。単純に建物を建てるのではなく、豪華客船を模した施設とした。この中にはプラネタリウムや各種展示が設置されている。

これは、「観光対象論」(堀野正人先生)の講義で学んだ「テーマパーク化する博物館」を実際に学習したことになる。

##### 企業博物館(産業博物館)

- ・企業PRを兼ね、地域社会に文化貢献(フィランソロピー)
- ・業種としては電気・ガス、食品が多い。他は繊維、電気通信等多用
- ・大半は直営で無料公開。観光施設的なものは有料とするところが多い

※講義プリント「ミュージアムの観光対象化(1)ー博物館ー」より

実際に行って分かった事として、テキストではレンガ倉庫の歴史的経緯は記述してあるが、具体的な建物の位置や並び方については触れられていなかった。実際に行ってみて、倉庫群は臨海部にあるが、かなり近い位置で山に囲ま

れていることに気づいた。これはあえてあまり切り拓かず、自然を要塞にしたのではないかと思った。

その他に気付いたこととしては、倉庫の近くにレールが敷いてあった。「防衛庁」と書いた杭があった。各々の倉庫のデザインが異なっていた。引き揚げに舞鶴港が使われ、記念館として残っていたことをあげておく。また、市街地には行かなかったが、倉庫近くの道路の交通量はあまりなかった。(端野良介)

### 3) 報告③

舞鶴市に関してテキストでこれまで学んだこととして、舞鶴の歴史、特に1896年以降舞鶴に鎮守府が置かれたことにより人口が増加し都市が拡大されていったことと、第二次世界大戦後は引き揚げ線輸送や船舶の修理工場としての舞鶴再建や、近畿圏の日本海沿岸の貿易港としての性格を大きくしていったことを学んだ。

それを踏まえて、実際に現地で学んだこととして、実際に舞鶴に行ってみると予想以上に山間の街道沿いに細長い市街地が広がっているということが分かった。

舞鶴赤レンガ資料館では、なぜ舞鶴に鎮守府が置かれたのか、当時の赤レンガの積み上げ方がどのようなものだったのか、舞鶴で建造された日本帝国海軍の船などが展示されていた。また、第二次世界大戦後舞鶴市がどのように復興したのかが展示されていた。特に、引き揚げ船に関してはどのような船で引き揚げを行っていたのか、戦争へ向かった夫の引き上げを待つ妻の言葉、ロシアの捕虜となった人々の体験記などが展示されていた。(谷内義和)

## (6) 往復バス移動中における車内外観察調査

### 1) 景観資源調査

#### 【活動事項】

車窓から眺められる景観で、興味のあった地点とその内容をいくつでも記す。

調査者番号	観 察 内 容
1	行き(奈良～大阪～兵庫～舞鶴)：中国自動車道から宝塚付近を見ると、山にぎっしり住宅が並んでいて異様な景観に見えた。また、西宮名塩には、丘の上の住宅地から丘の下駅まで続くエスカレーターがあり、興味深い光景であった。



	<p>帰り（舞鶴～京都市内～奈良）：日が沈んでいたため、はっきりとは見えなかったが、久御山 J C T から下を覗くと、巨椋池干拓地が見ることができた。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪の高速道路上ではビルの林立している様子やモノレールの軌道を確認することができる。</li> <li>・京都縦貫道路の建設途上の部分を観察することができる。</li> <li>・舞鶴湾は山が近く海が狭いため全体の写真への収まりが良い。</li> <li>・海上自衛隊の艦船を間近で観察できる。</li> </ul>
3	<p>舞鶴市内に入ってから、想像していたより山と海が近いと感じた。また、思っていたよりは元軍港を中心とした都市であるという痕跡は感じられなかった。バスの車内から福知山市内に入った時、山々に囲まれた盆地の眺めがとても良く、実際に訪れてみたいと思った。</p>

## 2) 危険発見調査

### 【活動事項】

交通上の危険箇所、道路渋滞など、学習のためのバスでの移動に際して、注意喚起の必要な場所とその内容をいくつでも記す。

調査者番号	観 察 内 容
1	<p>行き（奈良～大阪～兵庫～舞鶴）：トラックなどの商用車が多く、大阪市内は渋滞せずとも車の量が多いため、他にルートがあるならば、使用しないほうがよいと考えた。</p> <p>帰り（舞鶴～京都市内～奈良）：高速道路が未完成のため、一般道路を走らなければならず、バスという大型車が走るには危険であると思った。</p>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高速道路上に先が見えない左カーブがあった。そのすぐ先で渋滞があると危険である。</li> <li>・舞鶴では車があまり走っていないため、海に転落した場合の救助が遅れる可能性がある。</li> <li>・京都縦貫の工事区間は開けていて見通しが良いが、クレーンの動向に注意するべきである</li> </ul>

3	高速道路ではサービスエリアが一番危険だと感じた。広いサービスエリアの場合、サービスエリアの駐車場内を歩く際は通行する自動車に気をつけないといけない。
---	--

### 3) 車内学習環境調査

#### 【活動事項】

学習の場として、バス車内を利用する場合を想定した調査

#### i) 学生が予め準備しておくべきこと

調査者番号	観 察 内 容
1	早寝、早起き、朝ご飯(車内は眠くなりやすいので、十分に睡眠をとる必要がある。今回、軽食を食べようとしたが、とても食べづらく、臭いも良くないため、早起きし、自宅で朝食を食べておくことがベストであると感じた。)
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現地調査の場合鞆等は肩掛けよりも背負えるほうが望ましい。その際荷物は必要最小限度にとどめる。</li> <li>・屋外で使用する筆記具は、太く濃い線を書けるものの方が視認性が高く良い。</li> <li>・車内へは蓋のない飲料は持ち込まない。</li> </ul>
3	バス内でペンを落としてしまい拾うのが大変だったので、ペンはノートなどに紐でくっつけておくのとノートに記入するときに困らないのではないかと思った。

#### ii) 車内装備としてあったらよいと考えられるもの

調査者番号	観 察 内 容
1	後部座席からでも見える時計(到着予定時刻や休憩する時刻を報せていた場合、見やすい位置に大きな時計があると、降車準備などに取り掛かりやすい。)
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バインダーのようなものがあればメモを取りやすく良い。</li> <li>・ウェットティッシュがあれば便利である。</li> <li>・音声案内付のカーナビがあると、画面が見えなくても全員が次の行動について共有できる。</li> </ul>

3	帰りのバスの中でトンネルなどの暗所があったので、読書灯などがあればノートに書き込みがしやすいと感じた。また、テーブルなどがあればノートに書き込みがしやすいとも感じた。
---	---

iii) 車内で安全にくつろぐための留意点

調査者番号	観 察 内 容
1	シートベルトは正しい位置に取り付けなければ、返って危険になる場合もあるため、クッションやひざ掛けをする場合、シートベルト着用前に身に着けるべきである。
2	・飲み物はペットボトルなど蓋が出来るものにする。 ・不測の事態に備えシートベルトは必ず着用する。
3	車酔いへの対策は必須である。車酔いしやすい場合は、予め座る席の位置にも注意しておくべきだと考えた。

(7) バス等利用の必要性和有効性

舞鶴市の市域は、リアス式海岸の湾奥に展開している。今回の立寄り見学地点は、①重要文化財の赤レンガ倉庫群と博物館、②舞鶴引揚記念館、③エル・マール まいづる、であった。それぞれの地点は市内に点在しており、それらの展示見学施設を団体で、要領よく巡回し、見学時間を確保するためには、目的地での移動時間の短縮は不可欠である。そのため、現地にあっては、公共輸送手段よりも、出発地点より貸切バスの利用の方がより有効であり、大学生の団体移動を伴う教育旅行にあっては、その必要性は小さくない。